

農業農村支援センター

令和6年度

農業農村支援センター

1 概況

管内の農業は、標高 760m から 1,200m に至る地域で営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜では、セルリー、ブロッコリー、キャベツ等が産地化され、なかでもセルリーは、全国トップの生産量を有している。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県全体の 3 割弱の生産額を占めている。

また、近年は醸造用ぶどうの栽培が増加しており、令和 5 年 3 月には当地区がワイン特区として認定された。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

一方、諏訪湖周辺地域では、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

（1）耕地面積

耕地面積は 5,893ha で、田は 3,281ha、畑 2,604ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 120a で県平均 116a を上回っている。

市町村名	耕地面積 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	農家一戸当たり 耕地面積 (a)
岡谷市	213	75	138	48
諏訪市	603	395	208	71
茅野市	2,330	1,340	981	117
下諏訪町	47	22	25	38
富士見町	1,570	894	678	170
原村	1,130	555	574	200
合計	5,893	3,281	2,604	120
県	104,400	51,100	53,300	116

注) 資料: 農林水産省耕地面積調査 (令和 6 年 2 月 29 日現在)

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2020 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業従事者数、基幹的農業従事者等

管内の農家戸数は 4,905 戸で前回センサスの 84.1%であり、販売農家戸数は 2,074 戸で同 75.2%、自給的農家戸数は 2,831 戸で同 92.2%となっている。

農業従事者数は 5,286 人で前回センサスの 70.0%、基幹的農業従事者は 2,790 人で、同じく前回センサスの 70.0%であり、いずれも全県値より減少幅が大きくなっている。

市町村名	農 家 戸 数			農業従事者数 (人)	基幹的農業 従事者 (人)
	総農家数 (戸)	販売農家 (戸)	自給的 農 家 (戸)		
岡谷市	448 (512)	65 (79)	383 (433)	158 (215)	96 (116)
諏訪市	846 (982)	319 (403)	527 (579)	797 (1,054)	412 (553)
茅野市	1,999 (2,452)	825 (1,158)	1,174 (1,294)	2,099 (3,196)	1,050 (1,599)
下諏訪町	124 (147)	15 (21)	109 (126)	46 (56)	25 (33)
富士見町	922 (1,070)	450 (598)	472 (472)	1,127 (1,593)	557 (819)
原 村	566 (667)	400 (500)	166 (167)	1,059 (1,452)	650 (864)
合 計	4,905 (5,830)	2,074 (2,759)	2,831 (3,071)	5,286 (7,566)	2,790 (3,984)
対前回比 (%)	84.1	75.2	92.2	70.0	70.0
県	89,786 (104,759)	40,510 (51,777)	49,276 (52,982)	102,706 (137,207)	55,516 (73,467)
対前回比 (%)	85.7	78.2	93.0	74.9	75.6

注) 資料：2020年農業センサス

- ①販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家
- ②自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家
- ③農業従事者数：15歳以上の世帯員のうち、調査期日前1年間に自営農業に従事した者
- ④基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として自営農業に従事している者
- ⑤対前回比：2015年農業センサスとの比較。()は2015年農業センサス数値

(3) 令和5年の気象と農業生産状況

春先の気温が高く、長野地方気象台によるソメイヨシノの満開は平年より 13 日早く、昨年より 8 日早かった。

平均気温は6月から9月にかけて平年を上回り、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みだった。

春先の凍霜害はなかったが、6月の豪雨により一部ほ場への土砂流入、2月上旬の降雪によりパイプハウスの損壊が生じた。

水稻は、葉いもち病の発生が少なかったが、カメムシによる着色粒は、全域で見られた。南信地域の作況指数は 100 で、1 等米比率は 92.3%となった。

野菜類は、セルリーで疫病による被害が散見され、ブロッコリーでは7月から9月にかけて高温干ばつが続き、生育不良、異常花蕾の発生が多かった。

花き類では、春先の高温により生育遅延やアザミウマ類、ハダニ類が多発した。

(4) 農業等産出額 (R3)

全体の約農畜産物の産出額は、前年対比 99.3%の 144 億円であり、米は同 95.3%の 27 億円、野菜は同 98.5%の 67 億円、花きは同 105.5%の 38 億円となっている。野菜と花きを合わせると、産出額 7 割を占める。

水産業の産出額は、前年対比 75%の 6 億円となっている。

(単位：ha、千万円、%)

種 類		作付面積	農業等産出額	
				構成比
農畜産物	米	1,993	267	17.8
	麦・大豆・雑穀	426	3	0.2
	果樹	88	20	1.3
	野菜	1,453	670	44.8
	花き	88	380	25.4
	きのこ	—	10	0.7
	畜産	—	90	6.0
	養蚕・その他	—	0	0.0
	計	4,048	1,440	96.2
水産業		—	57	3.8
合 計		—	1,497	100.0

注) 産出額は、県農業産出額に基づく地域振興局推計値

令和4年は集計中

(5) 新規就農者の確保育成状況

県、市町村、JA等で構成する「諏訪地区就農支援連絡会」が中心になり、就農相談、就農計画の作成支援、就農後のフォローアップを実施している。令和5年度の管内の新規就農者数（49歳未満）は12名（野菜7名、花き5名）であった。

また、円滑な就農を支援するため、新規就農里親支援事業を実施している。

最近の新規就農の状況（49歳未満）

（単位：人／年間）

年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (計画)
人 数	11	13	8	4	12	2

注：R4年度までは45歳未満の人数

新規就農里親農業者登録事業・里親活動支援事業の状況

（単位：人）

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
里親登録者数	34	32	29	26	25	26
里親研修者数	6	6	3	4	4	4

注：各年度4月1日現在の人数